

特定非営利活動法人自遊の広場 令和4年度事業計画書

1 はじめに

昨年度改めて「福祉・介護を通して、里山地域を豊かにする」法人と唱えた。生命線であるキーワード「オープン」「人の輪」を、復活強化していきたい。

そのために、

- 各事業体共利用者の拡大(⇒経営の安定)
- 設備の充実(やまぼうしの家昇降機、コミュニティガーデンの各造作等の設置)
- 職員の若返り及び研修等を通じた法人各職員の充実
- 地域との豊かな関係(アーティスト等の社会資源・地産ガチャの様な利用者活動等)
- 防災体制や法令遵守体制の確認と強化

等に取り組む必要がある。

――昨年度、コロナの蔓延で成果が見えなかった情報発信等の活動は、「種まき期」の活動だったと思う。

2 事業内容

(1) 小規模多機能型居宅介護(すずかけの家)の運営に係る事業

- 未だ経験したことがない程の、利用者の入れ替わりの激しさに戸惑った。年度当初も続きそうだが、回復の兆しもある。

個々の利用者に対して大切にしてきた[きめ細かい対応]を、ケアを生かす事業所として発信していきたい。

- 前年度から行っている「部活」。利用者・職員一体となった楽しい試みを、続けたい。
- 精神障害のケースの方が地域で暮らし続けるようなシステム作りに取り組んでいく。
- 経済的には400万円の借りを背負っての出発だが、必要な加算は取り切った。つまり、利用者が定員いっぱいとなり人件費を含めた支出の無駄を省けば、経営可能のはずである。

(2) 住宅型有料老人ホーム(やまぼうしの家)の運営に係る事業

- 引続き基本方針に基づき運営していくが、まずは入居者の確保が優先課題となる。今年度中に3人までには増やしていきたい

- 手仕事部: 昨年は「くらして」の大和さんに協力いただきながら、すずかけの利用者と一緒に手仕事部を開催できた。コロナの事もあり開催できない月もあったが、月1回、草木染した糸を束ねて商品にするまでの作業や編み物など、みんなのペースでできることをやっている。

おしゃべりしながら手を動かす事が大好きな方の参加。これは、引続きやっていきたい。

- ゆずカフェの開催: 昨年度はコロナ感染の事もあり、地域の方にも自由に来てもらえなかった。今年度はぜひ開催したい。
- 階段昇降機: 階段昇降の困難な見学者が入所を断念したいきさつがある。現在助成金申請中。7~8月に結果が出る。助成金がもらえないときの資金(約160万円)をどうするか。重要な課題である。

(3) 農園、訪問庭づくりを主にしたフレイル事業(ハート de グリーンサポート)
別紙参照

(4) お楽しみ講座「じじばば自由大学」の運営

平成20年6月、すずかけの家がオープンするまで、不定期に開催した何でもありのお楽しみ勉強会。他の宅老所見学も行った。

講座は、福祉・介護関係、地域おこし等が多かったが、「ドイツ人の日本観(講師は牧野に在住していたドイツ人夫妻。ケーキまで焼いてきてくれた!)」、「正月飾りを作ろう」等のワークショップも開催。好評だった。

いよいよ、今年7月から再開したい。参加は誰でも自由。授業料200円(特別講師による特別講座は時価)。

予定内容は、別紙[令和4年度「すずかけの家」「やまぼうしの家」合同職員研修予定]の「D)じじばば自由大学」に記載。

(5) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

◎イベント事業

○ 6月26日に「第14回瀧川鯉昇落語会」を開催する。秋には、お月見や「ぐるっとお散歩篠原展」等、何らかの地域イベントが開催される。NPO 法人篠原の里と手を携え、豊かな地域づくりを担って行く予定である。

◎ふれあい事業

○ のびるっこ保育園との交流は今年も続けていく。コロナで中断していたが、小学校・中学校の見学・実習等の交流も復活させたい

○ モリアオガエルと思われるカエルの卵を今年も発見した。利用者・職員一丸となって、梯子をかけたり水槽ならぬバケツの準備をしたりと大騒ぎである。チャボも4羽に増えた。生き物系の面目躍如。庭は手入れされ草花・野菜が瑞々しい。ご近所のヤギやちょっと足を伸ばせばポニーがいる。里山らしい光景を維持していきたい。

◎情報発信

自遊の広場の活動を多くの人に知ってもらうため、引き続き情報発信に力を入れる。昨年度刷新したホームページ、フェイスブック、会報「自遊のひろば」(年4回発行)を活用して、日々の活動の様子や、自遊の広場の魅力を発信していきたい。